

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	100	学校名	沼津市立沼津高校・中等部	校長名	田中 剛
------	-----	-----	--------------	-----	------

*評価はA・B・C・Dを記載。

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
1	地域や保護者との連携協力による安全安心な学校づくり	生徒個々の通学路に対応した交通安全教育の実施	生徒	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故 令和4年度 11件 令和5年度 11件 違反切符 令和4年度 133件 令和5年度 232件 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故は目標達成ができなかったが、増加はしなかった。違反切符は増加してしまった。 違反切符が約100枚増加しているため、大きな事故を起こさないよう事後指導を実施する。
		いじめ防止対策基本方針に基づく取組の実施	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ネット依存度テストを行い、本校の傾向と結果を踏まえ、危険防止の講演会を行った。 SNSに関する指導件数2件4名 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高校2学年と中等部が一人一台タブレット等を持つようになり、安易な考えからの問題行動が起こった。学習用端末の使用について、授業や学習活動を通して指導の強化をはかる。また、未然に防げるよう指導を強化していく。
		P T Aと連携した防災対策の推進	総務	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎に実施 自主防災会から寄せられた質問への回答と、防災マニュアルの更新を行った。 12月の地域防災訓練の前日に、津波警報が発令された影響で全体の参加率は22.5%だった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地区防災協議会との連携を深めるようにしていく。 感染症対策の影響も少なくなり、9月の参加状況は35%であった。引き続き啓発活動に努める。
			保健	<ul style="list-style-type: none"> 今年5月以降コロナが5類へ移行したことにより、感染症対策が従来の形に概ね戻った。 教員に対して救急救命法研修を1月下旬に行い、多くの教員が参加できるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今までの感染症対策で身に付けた良い習慣を無駄にしないよう、感染症の状況にあわせて学校生活での衛生管理について見直していきたい。 定期的に研修内容の内容を見直していきたい。
		学校施設の安全点検	保健	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回、施設の安全点検を行い、関係各所に結果を伝達した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 修繕が必要なものについては、速やかに修繕願いを出してもらうよう周知する。
		不祥事根絶研修による取り組み実施	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 1月に1回研修を行い、職員による体罰、ネットトラブルは0件 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も不祥事根絶に向けて真摯に取り組む。
		保護者との双方向の情報通信システムの研究	進路	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部会への参加 動画のコンテンツを発信 大学のアドミッションオフィスの会議に参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> 他校の現状と取り組みを知った。 進学に関する資金の参考になる動画コンテンツを発信した。 大学の評価の観点を知った。
		学校運営協議会制度の導入の研究	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より学校運営協議会を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度を追ってより良い協議会の運営とその成果を学校経営にいかしていきたい。
2	自ら学び自ら進路を切り拓く生徒の育成	中高6年間のキャリア教育の推進	学年	<ul style="list-style-type: none"> 探究の年間計画を作成し、その目的や身に付けるべき資質・能力を周知した。 探究委員会を年間3回実施し、各学年でやっていることや課題を共有した。 各学年の発表会では、地域や外部の人材に積極的に働きかけ、生徒の成長により一層資するものとした。 中高合同の探究発表会を実施し、次年度の探究に向けて生徒の意識を高めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学年が工夫しながら探究活動を実践したことで探究について自分事として考える教員が増えた。しかし一方で、担当の負担が多くなったこともあった。持続可能かつ最大の効果を得られる体制を引き続き検討していきたい。 指導方法について教員のスキルアップが求められる。 探究を「総合的な探究の時間」だけにせず、教科指導とも連携して、生徒がより一層学習に前向きになる環境を醸成したい。
			進路	<ul style="list-style-type: none"> 進路シラバスを活用して各種行事等を実施した。 各種ガイダンスに加えて、大学ガイダンスも実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> シラバスをもとに体系的に教育活動に取り組むことができた。 各種ガイダンスを生徒に実態に合わせて実施できた。 大学ガイダンスで多様な学校を呼べた。
		個別最適化学習の推進	教科	<ul style="list-style-type: none"> classiの学習課題を活用して個別最適化をはかりながら外部模試に備え、学力向上をはかった。 進研模試のデータ分析を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習の効果が特に10月模試の結果に表れた。今後は計画的に課題等を指示して継続していきたい。 データの比較を通して現状を把握し、各教科の学習改善に生かすことができた。
			学年	<ul style="list-style-type: none"> WEBでのスケジュール管理。 学習計画と実施時間の入力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> WEBでのスケジュール管理が苦手な生徒もおり、来年度は学年部によりWEBと手帳の2パターンで対応する。
		新学習指導要領への対応	教務	<ul style="list-style-type: none"> 高校2年生よりG理コースを設置し、生徒個々の進路希望により一層応えられるようになった。 G理の設置に伴い、時間割等を工夫して適切に運用できるようにした。 毎学期各教科で会議を開き、よりよい観点別評価になるよう検 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は高2から高3でG理が設置され、2学年とも文理混合クラスが生じるため、授業展開が煩雑になってくる。時間割編成で柔軟に対応していきたい。 次年度は高1から高3の全学年で観点別評価が実施される。成績処理にかかる日程を工夫するなどして、教員にかかる負担を可能な限り軽減しながら、持続可能な評価を実施していきたい。 研修の成果もあり、現時点で観点別評価の

様式第3号

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
				討してもらった。		基礎は各教科で形成されていると言える。評価の意義を見直し、生徒の学習調整に生かす側面も研究したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの推進 研修年間2回 ・単元配列表等を活用した横断的・総合的な授業の推進 	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・中高観点別評価研修、AL 授業月間、AL 公開授業および授業検討会等を行った。校内研修年間4回。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価については、各教科で基盤はできてきたといえる。AL 授業に関しても多くの教員が授業に取り入れている。今後は授業や探究での、教員のファシリテーション能力を伸ばしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の教育効果の検証と精選 修学旅行満足度 中等部 90% 高校 90% 	高2 中3	<ul style="list-style-type: none"> ・高2 満足度 97.8% ・中3 満足度 98.7% 	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・国際理解・探究学習について十分な研修ができた。 ・各係、責任を持って活動する姿が見られた。また、平和学習について理解を深めることができた。
	入試制度変更への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大推薦対策、多面的総合評価への対応・英語外部検定試験等に対する対策 	進路	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会に参加 ・アドミッションオフィス会議に参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入試における評価の観点を知ることができた。
	中高一体となった授業改善等研修	<ul style="list-style-type: none"> ・AL 授業の実施 授業への取入れ割合 100% ・県内市立高校合同研修 年間 20 人以上 先進校視察 5 校以上 ・ICT を活用した授業、習得活用・評価に関する研修 	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケートでは AL 授業の有効性を 7 割以上の生徒保護者が感じている。また、8 割以上の生徒が学校は ICT を活用していると答えている。 ・先進校視察は行わなかった。本校での研修会には外部から 23 名の参加があった。 ・代ゼミ、駿台などのオンライン研修を活用した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Google やロイロ研修などは定期的に行っていく必要がある。 ・県内市立高校合同研修は AL 型授業をテーマに行ったが、AL については定着してきたと思われる。
3	文武芸の三道鼎立で人間力を磨く。文武芸の三道鼎立で人間力を磨く。文武芸の三道鼎立で人間力を磨く。文武芸の三道鼎立で人間力を磨く。文武芸の三道鼎立で人間力を磨く。	<ul style="list-style-type: none"> ・制服を正しく着こなし、さわやかな挨拶、清掃ができる生徒の育成 挨拶、清掃がしっかりできる 70% ・主体的な生徒会活動への支援と生徒会行事 学園祭生徒満足度 70% ・中高校則の見直し 校則は妥当である。65% ・部活動、生徒会、ボランティア活動、進路指導等を通してやり抜く力を身につける。 部活動退部率 10%以下 共通テスト受験者 70% ・部活動の効率的な指導法の研究 部活動ガイドラインの周知と見直し 部活動休日 週1回 平日1回の実施 ・地域貢献活動の奨励 一部活一貢献活動 全校生徒によるボランティア活動の実施 外部主催ボランティア参加者数 前年度比 10%増 	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケートより Q 生徒たちは学校の清掃や整理整頓活動を通して、環境美化の習慣が身につけてきている。 70.2% ・鷹峯祭満足度アンケート(生徒) 98.1% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の根幹となる部分なので、統一した多くの目で、引き続き丁寧な指導を徹底していく。
			生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を鑑みて見直しを行った。 シニヨン(お団子)の許可 ・高校1年生転部 7名 ・学校自己評価アンケートより Q 生徒達は、部活動や校外での活動に対して主体的に取り組んでいる 76.7% ・部活動休日 週1回は徹底されている。 平日の休養日は、長期休業期間に代替え等で実施した。 	A	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加人数 132名 この他に、クラスでの呼びかけに個人で登録・参加している生徒が複数いた。 ・市役所から依頼のあったボランティア活動へ2部活が参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症も落ち着き、ボランティア参加人数も増加傾向にある。 QRコードを使い、個人で申し込めるボランティア活動へ参加した生徒や人数の把握方法を確立する。
			保健	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の清掃活動について、より積極的に取り組んでもらうための対策を部員間で提案しあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がより積極的に清掃活動に取り組むための清掃道具の整備と、啓発方法についてより具体的に考えていく。
			中等部 公民 保健	<ul style="list-style-type: none"> ・担任のみでなく学年全職員で授業と所見の作成を行っている。 ・年間指導計画を作成し、重点項目を職員全体で把握している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全体の道徳教育に対する意識が高まり、生徒の道徳心も育まれつつある。 ・学年職員で行う授業を継続し、道徳の授業だけでなく学校の教育活動全体を通じていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書指導と探究活動を支える本のレファレンス ビブリオバトル校内大会実施 	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトル大会については校内運営が定着し、参加者はプレゼンテーションを大学生から学ぶなど意欲的に取り組んだ。 ・ブックフェアなどを通して、部活動やクラス単位での図書購入の取り組みをした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルでは県大会1位となり、全国大会へ出場した。 ・ブックフェアへの参加を促す。 ・図書委員会がよく活動した。今後も図書館の活用を促したい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・三道鼎立で人間力を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> (文) 中等部 英検3級全員取得 英検準2級 10% 数検3級全員取得 高校 難関大学進学 15% 就職決定率 100% 医療看護系志望進学率 100% 進路満足度 80% 	中等部 進路	<ul style="list-style-type: none"> ・英検3級 57.0% (第2回まで) ・英検準2級 17.7% (第2回まで) ・数検準2級 2人 ・数検3級 1人 ・共通テスト受験者 79.8% ・就職は残り1名結果待ち ・専門学校決定 100% ・その他継続指導中 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・3級取得までの見通しを全員が持てるようにする必要がある。 ・数検3級は中学3年生卒業レベルのため、受験につながらなかった。 ・生徒の学力が伸びなかった。 ・個別指導の研鑽が必要。

様式第3号

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題	
		(武) 中等部 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 2 部活 高校 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 3 部活 新体力テスト男女優良校 (芸) 中等部 文化部地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 2 部活 高校 文化部地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 3 部活	中等部 高校 体育 中等部 高校	・県大会出場 85.7% ・東海大会以上出場 (女子バスケ、柔道、弓道、陸上競技部) ・県大会出場 67% ・東海大会出場【陸上(女)、女子バスケ】 ・男子が優良校として表彰された。 ・文化部地域との交流 (吹奏楽部 Sea 級グルメ等演奏) ・沼津市芸術祭 部活参加 ・沼津市制 100 周年式典演奏 高校 ・文化部地域との交流 44.4% ・沼津市芸術祭 (吹奏楽、書道)	B B	・女子バスケ、弓道、陸上が全国大会出場 ・柔道男女 1 名ずつ東海大会出場 ・新体力テストの満点者が増えるように強化していく。	
4	持続可能な沼津市の未来を創生するグローバル人材の育成	総合的探究の時間の実施 地域探究の実施	校内に新たな委員会を設け、3年間を見通した探究学習のサイクルを計画した。	学年	・2年生は 20 年後の沼津と自分についての探究を行った。修学旅行で訪れた熊本でも探究活動を行い、沼津との比較や、沼津における方策を考える上でのヒントを得た。昨年の探究活動よりも、プレゼンテーションにおける改善もできた。 ・1年生は「100 年後も魅力的な街づくり」をテーマに探究活動を展開した。問の立て方、情報収集、ニーズ調査など探究スキルを身につけながら、他者と協働する力を養うことができた。	A B	・2年生は外部団体 (ディレクトフォース) の支援を受け、生徒の探究をより深めることができた。また常葉大学主催の探究発表会にも 4 団体が申し込み、2 団体が本選に出場した。本選に進めなかった 2 団体も、静岡県探究発表会に参加した。 ・1年生は 1 月下旬に外部より 19 名の講師を招き、学年探究発表会を実施した。約 75% の生徒が一定の満足感を得ることができた。また、講師から詳細なフィードバックを頂くことで、課題が明確となり、次のステップへ円滑に進むことができた。
		地域を支える医療人材の育成	医療看護講座の充実・医療関連施設等見学・介護体験	進路	・医療看護講座だけでなく、リハビリ職講座や沼津市立病院の看護師の講話を実施した。	B	・施設の訪問や看護体験が再開され、生徒の経験の場を確保できた。
		グローバル化に対応した国際理解教育の推進	・エンパワーメントプログラムの実施年 1 回 ・国際理解講座の開催年間 2 回 ・海外姉妹校提携、オンライン英会話学習の導入研究	管理職	・エンパワーメントプログラムの参加希望者を募集中である。 ・修学旅行先の長崎県において、授業内で実施した。 ・海外姉妹校提携には至っていない。	B	・エンパワーメントプログラムについては、継続について年間行事との関連で再検討したい。
		同窓会、PTA と連携した在校生卒業生の就職支援の研究	・PTA 保護者進路講演回の実施	進路	・3月に進路講演会を実施予定	B	・PTA に情報を発信する機会を増やしたい。 ・6月のPTA 大学見学が、進路説明する機会となった。
5	中高一貫の強みを生かした学校改革・働き方改革の推進	中高の絆を強くし、6年間の指導体制を確立し、流出防止を図る。	・自尊感情を高める指導の研究 振り返りシート カウンセリング室だより 年 10 回	保健	・便りはカウンセリング室より 1 月現在 9 回発行しており、年度末には 10 回発行できる予定である。人権教育については、委員会生徒がアンケートを作成し、その結果を受けて人権だよりを作成、人権意識の高揚に努めた。	A	・カウンセリング室だよりに掲載する内容を、生徒の心の悩みの解消に少しでもつながるように工夫したい。また、ただ読むだけでなく、生徒が考えられるような作りに工夫していきたい。
			・不登校対策 できたことノートの実践と研究	中等部 管理職	・生徒が記録したものを回収し、担任が励ましの言葉を返している。	B	・生徒の実態やなかなか口にはできない悩みなどの把握ができた。担任によってやり取りに差が出てしまっているため、生徒からの声を意識的に聞く場を設けるようにしたい。
			・6年間で生徒を育てるための教員の人事交流、研修等の実施 ・シニアティーチャー ・高校模擬授業、高校教員の面接の実施 ・難関大対策講座の充実 ・ドリームマップの活用	研修 接続 進路 中等部	・人事交流、中高各 1 人 (数学) ・中高合同研修実施 ・生徒主体の運営が定着しているが、参加者が少なくなっている。 ・模擬授業、面談を予定通り実施 ・実情に合わせた個別指導を実施 ・ドリームマップを 1 つの軸として、学校行事やキャリアパスポートに活用できた。	A B A	・シニアティーチャーは中高連携のひとつの柱である。生徒の参加なしには成立しないので、生徒主体の運営ではあるが教員による働きかけも併せて行う必要がある。 ・各選抜に合わせて、個別指導を実施した。 ・高校の先生方との面接を実施する前に、学級で面接練習を行った。模擬授業は、中学とは異なる学習形態を各々が感じる事ができた。
			・PTA 地区会員の絆の強化 エンカウンター 年 2 回	総務	・4年ぶりに PTA 総会開催。 総会への参加率は 30%	A	・1年生で作成したドリームマップを、2、3年生まで継続できるような取り組みを考える必要がある。 ・書面開催から対面開催になり、最後の対面

様式第3号

達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
					開催よりも参加率が向上した。
協働性の向上による PTA活動の効率的 運営	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員会の効率的運営 PTA地区会の質的改善 	総務	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加してくれた。 PTA地区名簿の簡略化し年度更新で実施した。
本校教育への理解 を深める広報活動 の強化	<ul style="list-style-type: none"> 本校からの情報発信の充実 毎月、本校行事に関する 記事をローカル誌への 提供 地域及び小中学校への情報 提供 市沼新聞、ALT通信 年間5回発行 	管理職 総務	<ul style="list-style-type: none"> ローカル誌への記事提供やHPへの 掲載回数を増やしたため、HP 閲覧者数が増加した。 市沼新聞1回発行 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的に行っていく。 ホームページやブログの更新により市沼新聞の発行は減少してしまった。
休暇取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> 割振、振替の徹底 夏期休業中の 休暇取得促進日の 設定 部活動休日週1日完全実施 休暇取得促進日の取得 100% 体験入学の等の改善 	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の休暇取得推進日を 設定したため、長期間休みをと れる人が増えた。 部活動休日週1日については、 ほぼ実施できている。 体験入学の日程を2日から1日 にしたため、夏季休業中の休暇 を取得しやすくなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 休暇取得日数が少ない人もいるため、今 後も休暇取得を促進する。
時間外労働時間の 縮減	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の設定 	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜日に設定している。 分掌、教科と連携し仕事の平準 化を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も推進していく。 定時退勤できる人を増やし、在校時間を減 らしていきたい。